

[基礎強化合格英語全文訳]

第1回

コンピューターは、ほんの1946年から使われているのだが、機械化時代における驚異でもある。それに加えて、情報を集め、蓄えているばかりでなく、かつて、人が解決するのに何カ月もかかった複雑な諸問題を、また解決できるのである。時々、コンピューターは、ほとんど人間ではないかと思える。というのは、手紙を読んだり、翻訳したり、チェスをしたり、作曲などができるからだ。そして、コンピューターは時として「考える」機械と呼ばれても何ら不思議ではない。

しかしながら、コンピューターが、今人間に取って代わるわけではない。我々人間の頭脳には、100億以上の細胞がある。一方、コンピューターには、2,30万の部品で成り立っている。今後、しばらくの間、我々の頭脳は少なくともコンピューターに比べて1万倍複雑であるといっても差し支えないだろう。我々がコンピューターを使うやり方はコンピューターでなく、我々が決めるべきものなのです。

第2回

《アメリカ社会における女性》 アメリカの社会における女性の地位は、ヨーロッパ人によって誤解されることが時にはある。一例をあげるとそのことが説明できる。ヨーロッパへやって来たアメリカ人の交換教授の妻は、多くのアメリカの家庭が備えている電気洗濯機や乾燥機がなかったので、毎週洗濯物を包んで近所のクリーニング店へ届けることにした。その包みはかなり大きかったし、一家には車がなかった。

それゆえ、アメリカ人の観点から見れば、毎週月曜日の朝、夫が大学の講義に出かける前に、その包みを自転車に乗せて、クリーニング店まで運んで行くのは理にかなったことであった。まもなく、その教授の妻は、近所の人たちがペチャクチャうわさをしていることに気づいた。彼女がその中でももっとも親しくしていた1人の婦人が、ついに彼女に近づいて声をかけた。

「ねえ、御主人に洗濯物を運ばせたりしてはだめよ。」と彼女が言った。「そんなことをすれば、世間の人たちに誤解されるわ。」

「私には分からないわ。」と教授の妻は言った。「私の代わりに、洗濯物を運んでくれ

るなんて、主人はとても親切だと思っているの。重い包みだし、私には、しなければならぬ家の仕事がたくさんあるわ。アメリカでは、自分の妻の手助けしても、知的職業についている男性の品位を落とすことにはならないのよ。」

「まあ、世間の人たちがうわさをしているのは、あなたの御主人のことではないわ。」と、その近所の女性は言った。「あなたのうわさをしているのよ。あなたは御主人は1日中せっせと働いていらっしゃるわ。みんなは、あなたが御主人に対して思いやりがないと言っているの。彼は1日せっせと働きに出かけようというのに、仕事の前に洗濯物を運ばなきゃいけないなんて、いけないわ。あなたがする仕事よ。」

第3回

《外国語を学ぶことの意義》 外国語を学ぶことは重要である。なぜなら、外国語を学ぶことによって我々は外国の人々との意思疎通や、その国の文化についてさらに多くのことを学ぶことができるからである。しかし外国語を学ぶ真の重要性は、さらに深いところにある。外国語を学ぶことによって我々は、文化的価値であれ、言語的価値であれ、我々のものが相対的なものであることを知るのである。このようにして我々は、現実を見る我々の見方が唯一のものではないこと、我々の価値が唯一のものではないことがわかるようになる。外国語を学ぶことは二重の経験である。すなわち、新しい言語を学ぶと、この新しい知識によって、我々自身の言語をより深く知ることができるのである。

ただひとつの言語しか話さないということは、窓も扉もない部屋に住んでいることにたとえることができる。そこは安全ではあるが暗く、閉ざされている。外国語はその部屋に新しい光を入れてくれる。初歩的知識があれば我々は窓の外を見て、新しい、違う世界を見ることができる。もし完全な知識があれば我々は扉の外へ出て、この新しい別の世界をさぐることができる。この発見によって我々の世界には豊かさや深みが加わる。この新しい世界をさぐる時、我々は人間が造った最も優れたもの、すなわち言語の重要性がわかるようになる。

第4回

少年少女たちが、いつも私に学校で詩を強制的に暗記することは悪いことかどうかをたずねてきます。 答えとしては、「はい」でも「いいえ」でもないのです。もしあなたがたが、詩とは、ばかげたもので、役にたたないし、体面にかかわることであるという考えに陥ってしまっても、詩を暗記することからたいした影響はないでしょう。しかし記憶力を鍛えることはよいことです、そして少なくとも詩を学ぶほうが、電話帳から20行暗記するよりもずっと楽しいことだということを覚えておきなさい。更に重要なことは、詩を学ぶことで言葉に対する尊敬心が身につきます。もし、言葉の尊敬心をなくしては、明瞭により多く表現することができません。そして、あなたがたはそのことが成し遂げられるまで、決して成長しないだろう。

第5回

子供がとても幼いとき、一般に子供というのは普通は嘘をつくなと教え込まれる。子供は嘘をつくことは悪いですよ、そして真実を語ることは良いことだと教えられ、中間のものはないと教え込まれる。ところが、その子供が成長すると、物事には黒や白で成り立っているのではなく、ただ一連の灰色であるということがはっきりしてきます。

青春に近づくころまでには、1人の少年は絶対的な真実を語るよりも、嘘をついたほうがいいときがあること（私達はそういう嘘を「方弁の嘘」という）を知ります。 これらの嘘というのは毎日の社会生活の一部です。社会というものは、嘘がなければ住み心地が悪い訳です。こうして人々は、他人に今日はきれいだとか、あなたのドレスはかわいいとか、病気で今晚の夕食会に來れないとかの嘘をつきます。人々は感情を傷つけずに、共により快適に暮らせるような嘘をつきます。

第6回

初めて日本や訪れたとき外国人に対して強い印象を与える特徴の一つは、日本人の控え目なことです。日本人のように島国の人々が控え目なのは全く当然なことなのです。英国人もまたそのような評判です。英国と日本でも両方で不幸にしてこの控え目な気持ちはしばしば無愛想だと取り違えられます。英国人だったらおそらく食堂車の中とほんのわずかに見知らぬ人に話しかけられた後を除いては、列車の中で見知らぬ人と話しかけたりしない。同じことは日本人に当てはまります。日本人は一旦知り合いになると、世界のどんな国民にもまして愛想がいいのです。私はしばしば日本を旅行中に、日本人に話しかけた時、私は最初はどうも無愛想だと思った人々は、結局、とてもいい人だということがわかりました。

第7回

《外国語を学ぶ理由》 人々はいろいろな理由のために外国語を学ぼうと思いたつようだ。なにか公共の試験の必要条件に応じたり、休暇に出かける海外旅行をいっそう楽しくしたりするという直接の目的のために外国語を学ぼうと決心する人もいる。実業家は直接または間接に海外との通信文を扱わなければならないだろうし、科学者は、自己の研究の分野でなされた進歩や発達の記事が、外誌に発表されたら、翻訳家の手を待たないで、それをいちはやく読むことの重要さを悟っているかもしれない。政治的な理由から外国の国民の活動に興味を抱いている人もありうる。そんな人は海外旅行と海外の新聞雑誌の通読とによってしか得られない時局についての正確な知識を得る必要があるかもしれない。文学の研究者は、じかにその大家の作品を読む力がなければならない。例えば、ルソー、セルバンテス、ゲーテ、リルケ、トルストイ、ダンテ、シェクスピアなど。新しい外国語を学ぶことは必然的に知的経験を拡大する結果になる。